



●続：色彩教材ギャラリートーク

3月1日開催の「第1回色彩教材ギャラリートーク」に向けて準備を進めております。2/19現在、12件の募集がありました。もう少し増える予定です。本日は開催についておさらいをさせていただきます。

●オンライン配信は実施しません。

●日時：3/1（土）13:00～16:30（予定）

●場所：DIC 本社（東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル）

●スケジュール（予定）

・12:30 開場、13:00 開会。

・ギャラリートーク（1人5分程度を予定）

・特別セッション（2テーマを予定）

●発表資格：日本色彩学会会員であること、または発表者に日本色彩学会会員が含まれていること。

●申込締切：ギャラリートーク出展は2月21日（金）まで。

聴講は「当日申し込み可能」です。

●参加費：一律¥1,000（会員・非会員問わず、学生は無料）。

●申込み：以下リンクよりお願いします。

<https://forms.gle/1FBhFYxcEeQocGkC9>

（吉澤陽介 主査より：030）

●日本の美しい色風景から教材を作る

日本色彩学会のホームページのバナーから入る「写真投稿欄」に「日本の美しい色風景」があり、現在、500点強の応募があるが、眺めるだけでも楽しい。

これらの写真の中から選んで、各自、「色彩教材」を制作してみたいかと思う。

勿論、学会からの了解を必要とするが、風景写真の被写体の様式や、主張色、配色をテーマにした教材作成が可能である。

被写体は建物を主役にしたものが多く、被写体の様式や、主張色、配色をテーマにした教材を作ることが考えられる。

その成果を、色彩教材研究会の発表会の際に、発表してもらいたい。

そのような作業をすることによって、自分でも、「日本の美しい色風景」を探して、写真を投稿する立場にも回って欲しい。

「美しい」の判断基準は自分自身と考えて、到るところに存在する美しい色風景を投稿して欲しく、さらに事務局を通して投稿欄の担当者に、自分が関心を持つテーマを伝えてもらうことも可能であると考えている。

私は足の麻痺で、歩けなくなり、100点まで投稿した後、打切らざるを得なかった。

（永田泰弘）

●環境色彩の設計と評価の方法ー1

メキシコのグアナファトという町の、外装に施された色は、鮮やかな原色が中心となって、家ごとに見事に塗装がされて、世界一鮮やかな色彩都市であるかも知れません。画像検索が得意な方は、その風景をまとめて、機会を見つけて発表してください。

このような、家並、街並みの色彩を環境色彩と定義して、街区ごとに評価をして、紹介してください。

これから、私の経験則をいくつか紹介します。調査の参考にしてください。

●迷った時は 10YR

日本の建築物の色の使用頻度は 10YR の低彩度色にピークがあります。

だから、迷った時は 10YR 周辺の低彩度色を選べば大きな間違いは起こらないでしょう。

●両隣の外装の中間の色の選択

まとめ感のある町並みを作るためには両隣の建物外装色の中間の色を選びましょう。色相、明度、彩度のそれぞれで中間に入る値の色を選ぶと連続性が感じられます。

●基調色・補助色・強調色を意識

この3要素を明確に決めて設計します。

（つづく）

（永田泰弘）